

## 小竹図書館 図書館利用者懇談会

- 1 日時 令和7年11月5日 (水) 午前10時半～12時
- 2 場所 小竹図書館 2階 会議室
- 3 出席者 利用者 15名  
図書館 3名  
(小竹図書館長、副館長、業務責任者)
- 4 テーマ 「私が小竹図書館に望むこと」及び「今後の地域との連携について」
- 5 配布資料 (1)次第  
(2)図書館利用案内  
(3)令和7年版練馬区教育要覧(図書館部分抜粋)  
(4)「これからの図書館構想」(抜粋)  
(5)練馬区立図書館報「図書館だより」  
(6)小竹図書館広報誌「すてんどぐらす」  
(7)小竹図書館 中学生・高校生用図書館だより「たけのこ通信」  
(8)催し物(11月～開催予定)のご案内  
(9)アンケート用紙
- 6 次第 (1)小竹図書館長挨拶  
(2)図書館員紹介  
(3)参加者自己紹介  
(4)小竹図書館について  
(5)懇談会テーマ:「私が小竹図書館に望むこと」及び  
「今後の地域との連携について」  
(6)質疑応答

### 小竹図書館利用者懇談会 会議録

#### 1 小竹図書館長挨拶

小竹図書館の館長の岡田でございます。本日は令和7年度利用者懇談会にお集まりいただきましてありがとうございます。利用者との懇談会と申しますのは、練馬区では秋の読書週間の一環として位置付けられており、館長と利用者並びに関係施設の皆様と一年に一回、このように集いまして、図書館の運営に関してご意見をいただいて、今後の運営の参考にさせていただくということで毎年開催しております。本日はよろしくお願いたします。

#### 2 図書館員紹介

副館長、業務責任者

### 3 参加者の自己紹介

#### 4 小竹図書館について

これから小竹図書館の概要及び現状についてご説明させていただき、懇談会のテーマであります「私が小竹図書館に望むこと」及び「今後の地域との連携について」に移りたいと思います。

こちらの資料（教育要覧の抜粋版）を見ていただいてもわかることですが、小竹図書館は平成2年7月に開館して、開館36年となります。平成26年に指定管理制度が導入され、私共ハートフルサポート共同事業体が図書館運営と施設管理をさせていただくようになりました。ハートフルサポート共同事業体は、NTTグループのテルウェル東日本という会社と練馬区に本社を置く五十嵐商会という清掃系の会社が組んだ団体で、指定管理の業者ということで採用されて今年で12年目です。五年毎の契約ですので、現在三期目に入って二年目の後半にさしかかっています。

小竹図書館は小規模図書館で、練馬区には5館ほど、小規模図書館があります。カウンターの後ろのバックヤードや書庫もありません。しかし、教育要覧の抜粋版の118ページの小竹図書館の欄を見ますと、個人貸出点数36万点は小規模館としてはかなり多いです。よって、借りられるときは沢山本が借りられたり、返されたりと蔵書数の増減が激しいです。

又、昔は本を貸し出せばよかったのですが、今はイベントも多く行っています。区内ではトップクラスのイベント数となっており、月によっては、毎週末イベントを行っているような状況です。

練馬区立図書館では「これからの図書館構想」という十年構想があり、本日も図書館構想の抜粋を配布していますが、今年度の区立図書館ではコンセプト4の「情報へのアクセスを支援する」に重点を置いて事業を行うことになっています。

デジタルを活用したサービスの提供、デジタル利活用の支援ということで、小竹図書館では、「デジタル時代の著作権」というイベントを11月23日に行う予定です。こちらは弁護士の方に講師をお願いしており、昨今、AIの進展が目覚ましく、その際に著作権の問題が発生するのでこの企画を考えました。

また、小竹図書館の取り組みとしましては、練馬区内には大学が三つあり、すべて江古田地域に集中しており、その大学との連携事業を考え、実施を試みています。武蔵大学とは江古田ミツバチプロジェクト、日本大学芸術学部とは文学系の先生による講演、更に今年は、武蔵野音楽大学の教授の講演イベントも実施しました。

昨今、図書館もデジタル化が進み、練馬区でも電子図書館の貸出やオーディオブックの配信が始まりました。未所蔵の資料の予約もウェブからできるようになり、図書館に来館しなくてもサービスが受けられるようになったことは、図書館の来館者を増やしたいという図書館側としては厳しいところです。特に小竹図書館は区の端に位置して、板橋区や豊島区など区外の方の利用が全体の20%位で、隣接区の方は電子図書などの一部サービスが受けられ

なくなったことから、貸出数、利用者数減などに影響をかなり受けていると思われる状況です。

図書館の最近の傾向としては、滞在型図書館が新しく作られるという流れが明らかに始まっています。カフェを増設したり、子どもの遊び場があったりという図書館が新しく作られています。この近辺では板橋区の中央図書館が有名で、評判が良いそうです。

小竹図書館は小規模館で、スペース的に余裕がなく、滞在型図書館とするには難しい状況ですが、利用者増に繋げる小さな工夫は日々行っています。

例えば、書架に本を面出しして置いたり、玄関横の丸窓のスペースをショーウィンドウのように飾って月に一度、展示替えをしています。

ということで、イベントは多く行う、それからデジタル化の流れ、滞在型図書館の流れもあり、それを推し進めていきたいところですが、小規模館ということで難しい点もあるというのが現在の状況です。

又、利用者についてですが、10代の子どもがなかなか図書館に来てもらえないということにも悩んでいます。これは日本全国の図書館の悩みかと思われませんが、これを何とか打破しようと、小学生向けの俳句のイベント「五七五で俳句にチャレンジ」を初めて、今年の九月に行いました。参加者は少なかったものの、講師の先生が来年、本を出版されるということで出版社からの取材も入ったこともあり、来年はもう少し盛り上げていきたいと思っています。

以上のことを踏まえまして、懇談会のテーマの「私が図書館に望むこと」、「今後の地域との連携について」、小竹図書館にどのような役割を求めたいかということについて、皆様にご意見を頂ければと思います。

## 5 懇談会テーマ「私が小竹図書館に望むこと」及び「今後の地域との連携について」

### 利用者

図書館の集客ということですが、私たちも保育園のなかだけでやるには限界があると感じているところがあります。例えば、先生たちが1冊の本を読むだけでも子どもたちへ様々なサポートが必要になるなど、大変です。ですので、図書館の方に保育園までよみかせに来ていただくなどして、保護者の方にも図書館を知ってもらう。そうすることで、子どもたちと一緒に図書館に行くきっかけになれば良いなと思います。

何か新しく始めるというよりは、今ある生活のなかはどう密着していつてくれるかという観点でお話させていただきました。また、今後、小さなアクションになるかもしれませんが、保育園からも少ない人数にはなってしまいますが、図書館に行くなど、子どもたちの経験を踏んでいくことを増やしていけたらと思っています。

### 利用者

子どもたちが小竹図書館と親しくなることが、保護者が図書館に来るきっかけになると思

います。いま開催している江古田のまちの芸術祭でも、小学生のアート展示でお世話になっていますが、例えば、図書館のなかにショーウィンドウのような展示スペースを設けて、地域の方々の表現するものを飾ったりプチギャラリーのようにすると、色々な人が訪れやすくなるのかなと思いました。また、図書館の方々の顔と名前、プロフィールのようなものがあると子どもたちにとっては、地域の小竹図書館の館長さんってこんな人なんだと知れて興味を持てるのかなと思いました。先ほどもありましたが、ぜひ、保育園まで図書館の説明やよみきかせなどに来ていただき、関わりを持てたらありがたいなと思います。

あとは、私はいま、町会のこども会の一環で小竹ひろばというのを開催させていただいているのですが、小中学生の集客に苦勞しています。そんななか、過去に小中学生が集まった企画があるのですが、それがボードゲームでした。ただ、ボードゲームを並べて遊ぶだけの空間だったのですが、結構来てくれたなと記憶しています。あとは、漫画の書き方を学ぼうという企画も人気がありました。

それから、場所の提供といったことと言いますと、土曜日は保育園で空いているスペースをお貸出しできたりもしますので、ご相談いただければと思います。

## **図書館**

最近、小さいお子さんのいるお母さんがたくさん本を借りることが減っているように感じます。図書館に来ていただけるようにもっとアプローチしていきたいなと思っているところなのですが、いまは保育園の保護者へのお便りなどもラインアプリなどで行われていて、チラシのような紙媒体の広報物を配っていただけると聞いて聞いているのが難しくなっていると聞いているのですが、やはり、紙のチラシなどを配っていただくのは難しいのでしょうか。

## **利用者**

チラシなどを常設で置くことはできると思うのですが、全員に配布となると難しいと思います。しかし、チラシをスキャンさせていただいて専用のアプリでお送りすることはできるのでご協力できるかと思います。

## **図書館**

ありがとうございます。また、ご相談させてください。

## **利用者**

滞在型図書館というのは、これからもっとひろがっていくと思います。貸出冊数もすごく大切なことだと思いますが、そういった数字だけにとらわれずにこれからも地域に優しい図書館でいていただけたらと思います。

## **利用者**

私たち子育て支援施設も小竹図書館と同じように、練馬区が一番端にあるということで、板橋区からもたくさん利用者の方がいらっしゃいます。一時預かりをやっているのですが、板橋区と練馬区が行政が違うということで、練馬区は応援券が発行されていて、2時間ぐらいは無料で子どもを見れるのですが、板橋区はありません。

ただ、そういった状況のなかでも、板橋区の方にも練馬区の方にも利用していただけるように色々と考えながらやっているところです。そこで、何が必要だろうと私どももいつも考えていて、別の子育て支援施設とは違うことを打ち出していったら、集客が増えるのではと考えて、色々との施設の情報も集約しながら、こうしていこうと決めていっています。1日平均で20人から30人の方たちがいらっしゃっていますので、新たな視点で何か方法を考えるというのが大切かなと思います。

また、今現在、年に1回小竹図書館さんとは連携事業を開催させていただいているのですが、図書館に本を借りにくるお母さんたちが減っているということであれば、例えば一カ月にひとつテーマを決めて本を紹介などしていただくと、保護者の方にも図書館に興味を持っていただけるようになるのではと思います。施設に来る子どもは0・1・2歳ぐらいの子が多く、お家で絵本をよむお母さんたちが多いと思うので、リストなどにして出していただければ、それをお母さんたちにご紹介することはできるかなと思います。

## 利用者

小竹図書館の丸窓の11ぴきのねこたちの展示がよく変化していますね。いつも良いなと思って見させていただいているのですが、同じ文庫のメンバーたちにも紹介したい、写真を撮ってラインなどで載せたいなと考えるんですけど、著作権はどうなるんだろうということを考えるたびに、著作権についてしっかり学んでいかなければいけないなと思います。

著作権の講座を昨年あたりに、光が丘図書館で開催していたのですが、多くの方が参加していて、著作権についてみんなが知りたいと思っているのだなと思いました。その時、講師の先生が、「今話した著作権の話は今日までのことで、明日になったらまた少し違ったりする。これが、これからの著作権だから、ずっと勉強していかななくてはいけません。」と仰っていて、著作権の講座などは色々な図書館で開催していただくとたくさんの方が参加できるのかなと思っています。

それから、カウンター関係の話をしたいのですが、小竹図書館のお客様のレファレンスの回数は多いですか？

## 図書館

だんだん減っています。スマホで大体のことはわかってしまう世の中になってきてしまっていますよね。レファレンスは、図書館職員にとって大事な業務なんですけど、参考図書が出版される数も減ってきており、なかなか苦しい状況ではあります。

## 利用者

そうですね。また、滞在型図書館についてですが、例えば、飲み物を飲みながら本をじっくり読みたいといったことを希望する人たちはいっぱいいますし、私たち子どもと関連のある団体の立場として聞きたいのですが、例えば、光が丘図書館では週1回、視聴覚室を開放して「おしゃべりタイム」という子どもたちが勉強する時間や友達とおしゃべりをする時間を設けています。小竹図書館は小規模館なので、場所の提供は大変だとは思いますが、どのような方向性をお持ちですか。

## 図書館

子どもたちに開放できる場所の提供は、小竹図書館でもしたいと考えていますが、現状として、こちらの会議室で調べものをしてほしいという一般の方も多くいらっしゃいますし、イベントの開催で開放できないことも多く、利用される方々からいつも決まった時間が使えないのは不便だというご意見もありまして、すぐに場所の提供をするというのは難しいところです。

## 利用者

そうですね。先ほど、保育園の先生が子どもたちを少しずつ連れて来るという話でしたが、子どもたちがうるさくならないようにするにはそれしかないですね。もちろんすぐには難しいとは思いますが、小竹図書館でも少しずつでも子どもたちがおしゃべりしたりしても良い時間が取れると良いですね。でも、その手段設定がなかなか難しいということですよ。

## 図書館

ただ、数年前から、あかちゃんタイムなどもやり始めていますし、どうしたらもっと場所の提供をしていけるか検討していきたいと思います。

## 利用者

児童館は幼児も来るので、本の貸し出しを行っています。幼児向けの本、小学生向けの読み物もそろえていて、一週間ですが貸出しています。そんなに本の動きはありませんが、子どもを遊ばせながら気に入った本を見られるのは良いなというお声はあります。わざわざ図書館に行かなくてもここで借りられるのはありがたいですとは言われますね。ですので、例えば、図書館さんから団体貸出させていただいてうちに本を置いても良いなと思いました。あとは、大学生のボランティアが児童館にはよく来ます。武蔵大学のボランティアサークルの方が毎月、定期的に遊びに来てくれていますし、今度は日本大学芸術学部とコラボもする予定です。ゼミで児童館PRの音源を作ってもらおうといったこともしています。この地域の子どもたちは大学生と関わるのが日常的なので、抵抗なく受け入れられると思います。

ので、ぜひ、図書館でも先ほどボードゲームの話などもありましたけど、そこに大学生が入ってくるとかなり小中学生は食いつくのではないかと思っています。また、駒沢大学の代表の子たちが自分たちで作ったカードゲームを子どもたちに体験させたいということで、ここ三〜四ヶ月の間に3、4回来てくれているんですけど、子どもたちは次はいつ来るのと言って楽しみにしているようなので、若い力がそこに入ると子どもたちの活性化にもつながるのかなと思っています。

ボランティアをやりたい学生は結構多いと思います。せっかく近くに大学があって学生さんもいますし、どういう糸口で繋がればいいかわからないという学生もいると思うので、こちらからアピールしていけたら良いのかなと思いました。

### **図書館**

ありがとうございます。大学生のボランティアさんがそんなにいらっしゃるんですね。先日、児童館に伺わせていただきましたが、中高生がすごく多くてびっくりしました。

### **利用者**

中高生タイムは水曜日と土曜日の5時から7時まで実施しています。普段は6時まで開館していて、6時まで結構小学生が幅を利かせてるんですけど、水曜日と土曜日は中高生が騒いでもいい時間になってるので、そうすると、小学生から「なんで今日は中高生タイムあるんだよ」という声もあり、やっぱりその場所を譲り合ってしか使えないもどかしさがありますね。移転後（令和8年4月に移転する）は幼児専用のお部屋はできるんですけど、高校生専用のお部屋がないので、また使い方が変わるかなとは思っています。

### **利用者**

先ほど、本をたくさん借りていくお母さんが少なくなったというお話があったと思うんですが、私は転勤族で3人子どもを育てまして、子どもが赤ちゃんの頃からずっと公立の図書館を利用させてもらっていました。司書の方に本の質問をしたりもしていました。どうしてこんなに良い場所を子育てに利用しないのかなと不思議に思っています。

いま、私は小さい子どもたちに喜んでもらえるような触って楽しむ布の絵本を作らせていただいています。貸出して汚れて返却されたものをまた補修したりしているのですが、子どもたちが喜んでくれるのならと、私たちボランティアも全員が喜んでやっていますね。この活動を続けながら、細々とですけれども、図書館を利用するその赤ちゃんが子どもになって、中学生・高校生になっても本を借りて読んでほしいなという気持ちが強いです。私自身もこれからも図書館はずっと利用させていただきたいと思っています。

### **利用者**

私からは3つ、図書館に望むことを述べさせていただこうと思います。

一つ目は明るく楽しく気持ちよく1日過ごせる施設であってほしいなと思っています。昔、練馬図書館によく1日いたんですけども、建て替え前の古い家屋で、2階には本とか勉強の机が並んで、1階は休憩スペースのようなものがありました。お昼になると1階にパン屋さんが売りに来ていて、色々なパンが出ていたので、そこで買って食べていたんですけど、せっかく江古田のあの周辺にはパン屋さんがあるということで、例えば月替わりでコラボなどして、パンを売ってと考えましたが、図書館は食べる場所が少ないですね。玄関前にベンチが並んでいると思うのですが、少し暗い印象がありまして、もっとあのスペースが綺麗になったら良いなと思います。芸術のまち江古田ということでオブジェを置いたり、あるいはもっと整地して、あずまやを作ってみたりして、食べるようなスペースにしても良いのかなと思います。

二番目は、読みたい本を読みやすくするということです。ベストセラーなど、予約多数の本の所蔵をもう少し増やしてほしいですね。あとは、専門書もなかなかないですね。冊数も少なく、内容がすぐ陳腐化するので、今どこの出版社も電子書籍の方が更新が早いんでいいなということで、練馬区全体の図書館の問題だと思うんですけども、読みたい本がすぐ読めるように電子書籍の活用をもっと図っていただければなと思います。

最後に三点目ですが、知の交流拠点を目指してほしいと思っています。昨日も日経新聞に出てましたけれども、AI リストラという言葉聞いたことがありますか。今年だけで120万人日本でリストラされているそうなんです。というのも、コンピューター、ロボットと人工知能がどんどん発展していて、事務職を中心に雇用がカットされています。これは日本だけではなく、世界中ですごい勢いで今起こってるんです。その一方で、デジタル人材が足りないんです。文科省でも厚労省でも本当に足りないと言っています。百万人単位で日本も足りないようです。こちらも、せっかく近くに大学もありますし、デジタル人材の育成につながるようなイベントや勉強会をどんどん開催していただきたいなと思います。

## 利用者

先ほど、ボランティアの活用についてのお話があったと思いますが、おはなし会などを出張というかたちで行っていると図書館の中の職員さんが足りなくなると思うんです。ですから、ボランティアに行っていただくってことになるとしても、やっぱり育成をしっかりとしていくことが大切だと思います。たくさんある本の中から、どんな本が良いのかを選ぶのはとても大切なことなので、ボランティア個人の好き嫌いや気持ちで選んで読むといったことがないようにしていただけたらと思います。ボランティアの方を活用するのはとても良いことだと思うんですけども、育成をきちんとしていただきたいなと思います。

今度、小竹図書館で大人のための朗読会を開催するようですが、子どもに向けたよみきかせとはまた全然違う感覚だと思うので、ぜひ、そういう方に向けた講座もしていただけたら良いですね。

## 利用者

私は、図書館が10代の人たちにどうしているのかということに注目しています。例えば、イベントの対象についてですが、ポスターなどに小学生以上、中学生以上などと区切って書いているものが多いですね。このように表記してしまうと、学校に行っていない人にとっては地域の施設に来るというのは、ハードルが高くなってしまわないでしょうか。どういう言葉で表現したら良いのかはわからないのですが、表現の仕方に工夫があっても良いと思います。

## 利用者

今日は大勢の方から色々なご意見を聞かせていただいて、すごく勉強になります。私は三大学の学生さんともっと交流が持てるようにしたいと思っていて、武蔵大学にアットというボランティア団体があるのですが、「パンさんぽ」というイベントの時にアットさんと繋がって、9店舗のお店屋さんをインスタグラムで発信するための活動をしてもらいました。

その活動も、もう何年もしていて、ひとつのカリキュラムの中に入れていただいたりしているので、図書館のこういった活動にもぜひアットさんにはぜひ繋がっていただきたいと思うので、今度、ご紹介させていただけたらなと思いました。

また、中学生、高校生がカードゲームやボードゲームをとという話が出ていましたが、若い力ってとてもすごくて私たち商店街の中でも「江古田はひとつ」という会合を開いている時に、武蔵大学の学生さんに入っていたことがあるんです。その学生さんたちは、江古田キャンパスプロジェクトという、アットさんとはまた別のチームの学生さんたちなんですけど、デジタルにもものすごく強く、私たちの年代では考えつかないような発信や意見が出てくるので、非常に刺激になります。10月30日にハロウィンのイベントを江古田全体でやったのですが、11 商店街のうちの8 商店街が参加しました。雨が降ってしまったので、どうなるかなと思ったんですが、子どもたちは喜んでハロウィンのコスチュームを着ていましたし、お菓子を配るところにも皆さん集まっていました。抽選会場にも長い列ができるくらい大盛況でした。商店街と三大学の学生さんが色々と意見を述べ合ったことが、そこにすごく活かされていたと感じました。ですので、ぜひ今後、図書館の活動にも学生さんを取り込んでいっててください。

## 利用者

皆さんから色々な意見が出て、すごく参考になっています。私もいくつかの図書館を利用させてもらっているのですが、小竹図書館のカウンターの皆さんはとても親切だなと思っています。本を探しているときに本棚まで一緒に来てくださり、本を取り出してくださいました。本当に親切だなと感じて、また来たいなと思いました。今後もそういったサービスを引き続きお願いしたいと思います。

あと、先ほども話が出ましたが、外のベンチも綺麗にさせていただいて、そこでみんながおしゃべりできたりさせてもらいたいなとも思いました。また、江古田のまちの芸術祭のなかで、子どもアートという展示を六つの小学校と連携して実施しておりますので、そういった連携も強化していけたら良いのではないのでしょうか。

### **図書館**

ありがとうございます。皆様のお話を聞き、改めて図書館は人と人が直接触れ合える場所であり、今後もそれを大事にしていきたいと思いました。今日お話しにも出てきましたが、児童館を利用する子どもたちの多さには本当にびっくりしました。特に中高生などが来ているのは、魅力があるからこそだと思いますので、図書館としても今後どのような工夫をしていけるかを考えていきたいと思えます。貴重なご意見をたくさん、ありがとうございました。